

平成26年度 病害虫防除技術情報 第11号

平成26年12月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

平坦地域における白ネギべと病の防除対策について

白ネギ周年栽培を行っている県北部で、べと病の発生が多い状況です。向こう1ヶ月の気象条件は、高温多湿で経過すると予想されており、本病の発生に好適な条件が続くと考えられます。本病は15～20℃程度の温度と多湿条件で発生しやすく、特に本年は平年より早い11月から発生が認められています。これから、本病を対象とした防除を行う重要な時期になると考えられます。既に発生している圃場のみでなく、まだ発生していない圃場でも速やかに防除を徹底して下さい。

1. 発生の状況

11月中旬の巡回調査では、発生圃場率、平均発病度ともに高かった。

発生圃場率 : 50.0% (平年 1.3%、前年 0%)

平均発病度 : 6.0 (平年 0.4、前年 0)

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が見られない圃場も既に病原菌が感染している可能性が高いため、まずは治療効果の高い薬剤を散布した後、予防剤（保護殺菌剤）を中心に散布する。
- (2) これからの時期の散布は、曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) ネギは薬剤が付着しにくいので、必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するように散布する。
- (4) 排水対策を施すとともに、肥料切れしないよう適正な肥培管理に努める。
- (5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。なかでも同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>)